



ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

No.106

August 2021

応用地域学会ニュースレター

CONTENTS

1. 新会長就任あいさつ
2. 副会長選挙の結果
3. 運営幹事等役員の選任
4. 第35回研究発表大会のご案内
5. 2021年度坂下賞候補者の推薦
6. 第11回アジア地域科学セミナーのご案内
7. 「応用地域学研究」への投稿論文の募集
8. 2020年度学会決算(概要)
9. 2021年度第1回運営委員会報告(概要)
10. 事務局だより

1. 新会長就任あいさつ 「学会の意義が問われるとき」

ARSC 第18代会長 奥村 誠

大澤義明前会長の後を引き継ぎ、2021年4月から2年間の予定で、応用地域学会会長を仰せつかりました。浅学非才の身ですが、副会長、運営委員をはじめとする皆さんと共に、本学会の発展に向けて尽力致す所存ですので、どうかよろしくお願い致します。

本学会は1987年に発足してから既に34年の歴史を持ちますが、私自身、ちょうど京都大学大学院博士後期課程を1年で中退して助手に採用され、研究者への道を歩み始めた時期でした。当時土木工学で経験的になされてきた地域計画をより数量的、科学的に研究するための手がかりとして、ペンシルバニア大学を起源とする「地域科学」に期待が高まっていました。当学会は、その代表的な研究成果の論文や解説書の著者である著名な先生方が、侃侃諤諤の議論をされるという、入門者からすれば極めて不思議な感じがした場所でした。それゆえ、敷居も高く、私自身は3~4年に1回程度しか発表大会に参加、発表できませんでした。発表はいつも大変緊張しましたが、「自分のオリジナルだ」と意気込んで発表したアイデアが、別の分野では既に別の言葉で研究されていることを教えていただき、その後、経済研究所などの図書館に通い、ジャーナルを借りてコピーした論文をキングファイルにまとめるという作業に繋がりました。(結局積読状態のまま、タイトルだけしか読んでいないものが圧倒的に多かったのですが・・・)。

その当時と比べると、研究環境は大きく変化しています。計量経済学、空間統計学、都市経済学、新都市経済学などの基礎理論の大変良質なテキストが多数出版されています。電子ジャーナルのデータベース化が進み、キーワードや引用リンクを手がかりに検索することができ、わかりにくい英文はそのまま翻訳ツールに掛けることもできます。しかしその一方で、先に世界の研究動向を把握し、自分がオリジナリティーを発揮できそうなテーマや手法を見つけ出すことが必要となりました。他人が進めている研究の情報は効率的に集められるようになる一方で、井の中の蛙のままで、自由にアイデアを夢想することは難しい時代になっているような気がします。

このような時代の学会の役割はなんでしょうか？私は「交流の中で、少し離れたところの様子を知ること」だと考えています。キーワードや特定の著者を基軸にした検索で辿れる世界は、SNSで作られるコミュニティと同じで、狭い範囲を深く知るには効率的ですが、一つの「井戸」の奥深くにとどまってしまう危険性があります。こちらの井戸では壁の向こうから聞こえてくる音や気配に怯えている状況だが、すぐ近くには別の同じような井戸がいっぱいあり、その中には既に、壁の向こうの音や気配の正体を掴んでいる井戸もあるかもしれません。このような隣接分野の研究者のお話は、すぐには自分の研究課題の解決にはつながらないかもしれませんが、時を経て新しいアイデアの創出につながる可能性があると思います。

本学会は、長らく会員数の低迷と国際雑誌等の経費負担とのアンバランスに苦しんできましたが、先輩方のご尽力により雑誌発刊体制などが整理され、若干の余裕が生み出されるようになりました。それを次世代の研究者の育成に役立てるため、本年度より学生会員の年会費を無料化しています。さらにコロナ禍の影響で研究発表大会やアジア地域科学セミナー（ASRS）もオンライン開催となり、参加のための時間と金銭の費用は格段に小さくなっています。同じ場所と時間を共有し、さらに飲食を共にすることに比べると魅力は落ちますが、オンライン研究発表を聴講して質問や感想をチャットで発表者に戻すことから、新しい人間関係ができるきっかけになるはずです。臆することなく、少し離れたところの様子を知る人交流を始めてほしい。本学会がそのような場となることを強く期待しています。

コロナ禍の影響は来年以降も続くと思われ、研究発表大会も従来の完全オンサイト形式に戻すことが正解とは言えない状況にあります。会員の皆様からもアイデアやご意見をいただきながら、学会の発展につながる方向へと進めていく所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

2. 副会長選挙の結果

選挙管理委員 猪原 龍介(亜細亜大学)

宮川 雅至(山梨大学)

応用地域学会副会長選挙は、2021年3月25日締め切りで実施されました。開票集計は3月26日に選挙管理委員によって行われました。結果は以下の通り、総投票数103票の内、47票を獲得された高橋孝明先生(東京大学)が当選されました。2021年4月1日～2023年3月31日までの2年間、副会長にご就任いただきます。

投票総数

103 票（無効票 3 票）

高橋 孝明（東京大学）

47 票

3. 運営幹事等役員の選任

ARSC 事務局

新しい会長のもと、運営委員会が2021年8月1日（オンライン）に開催され、以下のように2021年度の運営幹事等の役員、委員会委員等が選任、又は任命されました。（下線が今回の新任、敬称略・順不同）

2021 年度 ARSC 役員等

○運営幹事（規程無）

- ・事務局業務の幹事業務を担う。

<2020・2021>

総務（会員の入退会）	石倉 智樹（東京都立大学）
会計（決算，予算）	亀山 嘉大（佐賀大学）
渉外（ニュースレター）	内藤 徹（同志社大学）

○監査委員（会則第9条3項）

- ・運営委員会が個人会員の中から委嘱する（2名）。（任期の規程無）

<2021・2022>

近藤 恵介（経済産業研究所）
松浦 寿幸（慶應義塾大学）

○選挙管理委員（選挙内規第3条）

- ・会長が指名する（2名）。（任期の規程無）

<2021・2022>

小林 隆史（立正大学）
中畠 一憲（兵庫県立大学）

○大会プログラム委員会（規程無）

- ・運営委員会が選出し、委員長を指名する。（開催大学・委員長の意向により委員の増減あり）

<2021年度(金沢大学)>

委員長 高塚 創（大阪市立大学）
委員 大澤 実（京都大学），黒田 雄太（大阪市立大学），高山 雄貴（金沢大学）
塚井 誠人（広島大学），松尾 美和（神戸大学），森田 忠士（近畿大学）

○坂下賞選考委員会（2004 年度～）

<坂下賞選考規程> [選考委員会] 第 5 条：運営委員会によって選出された 3 名の委員と会長及び副会長の 5 名によ

って構成される。委員長は、5名の中から運営委員会によって指名された者が当たる。[選考委員の任期] 第6条：運営委員会によって選出された3名の委員の任期は3年とし、連続して2期務めることは出来ない。これらの委員は、毎年1人が新任となり、1人が退任する。会長及び副会長については、その在任期間を任期とする。

<2021年度坂下賞選考委員会委員>

委員長 森 知也 (京都大学 3年目)
委員 佐藤 泰裕 (東京大学 2年目), 山本 和博 (大阪大学 1年目)
奥村 誠 (ARSC会長), 高橋 孝明 (ARSC副会長)

○応用地域学会論文賞 (Best Paper Award of ARSC) 選考委員会

<応用地域学会論文賞選考規程>

[選考委員会] 第5条：運営委員会によって選出された3名の委員と会長及び副会長の5名によって構成される。

委員長は5名の中から運営委員会によって指名された者が当たる。

[選考委員の任期] 第6条：運営委員会によって選出された3名の委員の任期は3年とし、連続して2期務めることは出来ない。これらの委員は、毎年1人が新任となり、1人が退任する。会長及び副会長については、その在任期間を任期とする。

<2021 年度選考委員会>

委員長 城所 幸弘 (政策研究大学院大学 3年目)
委員 赤松 隆 (東北大学 2年目), 唐渡 広志 (富山大学 1年目)
奥村 誠 (ARSC会長), 高橋 孝明 (ARSC副会長)

4. 第35回研究発表大会のご案内

第35回研究発表大会実行委員長 中山 晶一郎 (金沢大学)

2021年度大会は、下記の要領のもと、オンラインで開催いたします。意欲的な論文の発表と活発な討論を期待しております。会員の皆様に奮ってご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

(1)大会概要

- ① 期 日 2021年11月20日(土), 21日(日) (総会は11月20日(土))
- ② 会 場 オンライン (Online urlは大会が近づきましたら、お知らせします。)
- ③ 大会ホームページ：<https://sites.google.com/view/arsc2021knzw>
- ④ 大会参加費：無料 (ただし、大会参加は正会員または学生会員のみ認められます。)

*今大会の申し込みはGoogleフォームから入力する形式になっています。大会ホームページをから、メールアドレスと会員番号を用いて「参加申し込みフォーム」に移動し、必要事項の入力をしていただきます。

ご不明な点がございましたら、第35回研究発表大会事務局（E-mail：arsc2021knzw@gmail.com）へご連絡ください。

(2)セッション構成

- ・研究発表大会では、下記セッションを開催いたします。

<p>一般 セッション</p>	<p>・幅広い論題でのセッションです。広くは地域，都市，交通，環境，国際に関する諸問題が対象になりますが，広い意味でこれらの問題と関係する研究報告を歓迎しております。参考として下記のキーワードを挙げておきますが，これらに縛られることなく，ARSCにとって関連ある論題を積極的にご報告ください。</p> <p>《キーワード》成長と衰退，地域格差，産業構造，雇用・人口，地方分権，地方交付税，国土計画，都市空間，土地利用，都市集積，外部経済，住宅立地，都市化，都市財政，都市交通，混雑税，交通需要マネジメント（TDM），航空・港湾，投資評価，物流，通信，影響評価，環境税，水質・大気汚染，地球環境，電力，資源管理，防災，開発援助，直接投資，通貨問題，貿易・関税</p>
<p>Early Bird セッション</p>	<p>・博士論文等を執筆している若手研究者や大学院在籍中の学生会員が報告するセッションです。</p> <p>・単著論文に限らず，ARSCの将来を担う若手研究者が主体的に取り組んだ研究報告を期待します。なお，本セッションに限り，共著者による代理報告は認められません。</p>
<p>特定 セッション</p>	<p>・特定の論題を重点的に議論するためのセッションです。論点や方法論，対象が共通する論文数編から構成されます（これまでに「新しい産官学連携のあり方ー筑波大学での革新的取り組みー」，「沖縄県の経済振興を考える」，「少子高齢社会の社会保障・教育・環境」，「交通混雑緩和と料金政策」，「知識の創造・伝搬と集積の経済」，「人口経済学的アプローチ」，「九州の地方創生と国際化・イノベーション」 「都市間交通」などの特定セッションが組まれました）。</p>
<p>シンクタンク・セッション</p>	<p>・ARSCは，会員による研究成果を実務へ活用するとともに，実務の中で発見された様々な問題を新たな研究課題として会員に紹介するという双方向の展開が重要であるという共通認識に立っています。</p> <p>・このセッションは，会員の中で特に計画，政策立案，それに関連する調査等の実務に携わっている方々からの報告や問題提起をもとに構成されます。</p> <p>・賛助会員の方々をはじめ，実務関係者の方々からの<u>企画提案をお待ちしております。</u></p>

(3)「一般セッション」と「Early Bird セッション」の発表申し込み

① 発表者の条件 **ARSC 会員であること**

※非会員の場合は発表申込までに入会手続きを行ってください。

② 発表申込期限 **2021年9月15日(水)必着**

③ 発表申込み(申し込み方法, 申し込み先)

前項(1)で述べましたように, 今大会では, 大会ホームページ内の「参加申し込みフォーム」をご使用いただき, 下記にある a~h の各項目を入力して発表申し込みをしてください。

a.発表者氏名・所属

b.連名者氏名・所属

c.発表者の E-mail アドレスと会員番号(入会申請中の方は「0000」で対応)

d.発表題目(和・英のいずれか)

e.要旨(和文 200 字, 英文 100 語程度。いずれかを記載)

f.発表時の使用言語(日本語または英語)

g.希望討論者(候補者 2 名まで)

※希望討論者は最低限 1 名を必ずご記入下さい。候補者の方に事前に打診される必要はありません。プログラム編成や討論者のご都合によってはご希望に添えないことがあります。あらかじめご了承ください。

h.発表区分(「一般セッション」「Early Bird セッション」「特定セッション」「シンクタンク・セッション」の区分を記入。次項(4)を参照)

※第 33 回佐賀大会から「最優秀学生論文賞」を創設しました。Early Bird セッション発表論文のうち, 論文提出時に同賞の審査をうけることを希望した論文が審査対象になります。詳細は, 大会ホームページ内の最優秀学生論文賞の要項をご覧ください。

(4)「特定セッション」と「シンクタンク・セッション」の企画の募集と発表申し込み

・「特定セッション」と「シンクタンク・セッション」については, 広く会員各位からの企画提案を募集しています。

・**2021年9月15日(水)までに企画提案をお送りください。**「特定セッション」と「シンクタンク・セッション」の発表申し込みに関し, 大会ホームページ内の「参加申し込みフォーム」に加えて, ワード自由書式による申し込みも可能とします。ただし, 前項(3)③で挙げた項目を参考に, 「特定セッション」や「シンクタンク・セッション」の全体像が分かるようにして申し込みください。ワード自由書式で申し込む場合, 第35回研究発表大会事務局・兼プログラム委員会(E-mail: arsc2021knzw@gmail.com)までお送りください。

*メールの件名は「arsc 特定 申込(申込者氏名)」または、

「arsc シンクタンク 申込(申込者氏名)」として下さい。

(5) 今後の予定

① 大会プログラム

・10月21日(木)を目途に確定し、大会ホームページとニュースレターを通じてお知らせいたします。

② 発表原稿

・最終の発表原稿を11月6日(土)までに座長、討論者、大会事務局の3か所にそれぞれ個別にお送りください。

*E-mailに添付して送られる場合は、必ずPDF形式にしてください。

*大会事務局宛てのメールの件名は「arsc 発表論文(名前)」として下さい。

*論文のファイル名は「arsc 発表論文(名前).pdf」として下さい。

(例 arsc 発表論文(鈴木一朗)など)

*座長、討論者の連絡先が分からないときは、大会事務局にお問い合わせください。

・大会事務局に論文をPDFで送付していただければ、大会HPに報告論文をアップロードします。

(アップロードの期間は本年中と限定します。)アップロードを希望しない場合は、メールにその旨を明記してください。

③ 発表者の準備

・発表に際して利用するカメラ付きパソコン等をご用意ください。

(6) 2021 年度大会実行組織 (敬称略)

オンライン 大会実行委員会	委員長 中山 晶一朗 (金沢大学) 委員 高山 雄貴 (金沢大学), 山口 裕通 (金沢大学), 壇辻 貴生 (金沢大学)
プログラム委員会	委員長 高塚 創 (大阪市立大学) 委員 大澤 実 (京都大学), 黒田 雄太 (大阪市立大学), 高山 雄貴 (金沢大学), 塚井 誠人 (広島大学), 松尾 美和 (神戸大学), 森田 忠士 (近畿大学)
オンライン大会事務局・ お問い合わせ	〒920-1192 石川県金沢市角間町 金沢大学 自然科学 2号館 2C517 都市システム科学研究室 電話: 076-264-6394 E-mail: arsc2021knzw@gmail.com

5. 2021年度坂下賞候補者の推薦（候補者を公募します）

坂下賞選考委員会委員長 森 知也（京都大学）

応用地域学会では、日本における地域科学の研究を発展させ、当学会を地域科学研究の世界的拠点にする視点に立ち、若い研究者を奨励することを目的として、毎年1名の方に『坂下賞』を授与しております。

対象者は、応用地域学会の会員かつ2021年12月31日に満40歳以下の方で、地域科学の理論的研究、実証的研究及び政策的研究のいずれか（あるいは複数の領域）で大きな貢献をなし、現在もなお継続的に研究活動を行っていることが条件となります。

2011年度から一般会員からの推薦（自薦も可能）も含めて選考しておりますので、奮ってご推薦下さい。

<一般会員推薦要領>

推薦者の資格：応用地域学会員の一般会員であること

推薦できる数：推薦者が推薦できる数は1名に限る

応募書類：

推薦書（A4一枚：推薦書様式参照（ニュースレターに添付））および業績リスト（様式は任意）

締 切：2021年10月1日(金) 17時

（必着：事務局からの返信を確認してください）

宛 先：下記、ARSC事務局宛にPDFあるいはMS-Wordのファイルをメール添付で送付してください。

E-mail： clerk@arsc.org

なお、一般会員推薦の候補者は、坂下賞選考委員会で委員会推薦の候補者と併せて審議され、受賞者が決定されます。応用地域学会総会(2021年11月20日予定)にて、受賞者を発表・表彰いたします。

<2021年度坂下賞選考委員会委員>

委員長 森 知也（京都大学）

委 員 佐藤 泰裕（京都大学）

委 員 山本 和博（大阪大学）

委 員 奥村 誠（ARSC会長）

委 員 高橋 孝明（ARSC副会長）

6. 第11回アジア地域科学セミナーのご案内

ARSC 事務局

アジア地域科学セミナーは、アジア諸国における地域科学の研究発展と交流を促進するために、応用地域学会（ARSC）、台湾地域学会（CRSA）、中国地域学会（RSAC）、韓国地域学会（KRSA）が共催して行い、第2回より、各国持ち回り開催となっております。（第2回は日本（ARSC）、第3回は台湾（CRSA）、第4

回は韓国（KRSA），第5回は中国（RSAC），第6回は日本（ARSC），第7回は台湾（CRSA），第8回は韓国（KRSA），第9回は中国（RSAC），第10回は日本（ARSC）が主催しました。）

第11回アジア地域科学セミナーは，Chinese Regional Science Association-Taiwan（CRSA-T）の主権により，2021年10月8日（金）～9日（土），Feng Chia University(逢甲大学)を幹事校としてオンラインで開催されます。7月16日時点で，日本（ARSC）からは，6本の論文発表が予定されています。

* 日程

2021年10月8日(金)～9日(土)

* 開催場所

オンライン

* セミナーホームページ

<https://www.11thasrs-fcuupsi.com/index.php?lang=en>

* 登録料

無料

* 申込状況（2021年7月16日現在）

全体：論文発表 28本

うちARSC：論文発表6本

7. 「応用地域学研究」への投稿論文の募集

「応用地域学研究」編集委員長 堤 盛人（筑波大学）

「応用地域学研究」編集委員会では論文投稿を随時受け付けております。投稿論文は編集委員会の指名する複数の査読者により査読が行われます。奮ってご投稿下さい（<http://www.arsc.org/>をご参照ください）。

理論から実証まで幅広い研究論文をお待ちしております。様々な地域課題に関する問題解決型研究などの適時性に優れた論文のご投稿や，若い研究者によるご投稿も歓迎します。

1. 論文投稿の際，論文はできるだけ MS-Word 形式のファイルを電子メールの添付ファイルでお送り下さい。宛先は，編集委員長です（e-mail：journal@arsc.org）。PDF ファイルでも結構ですが，印刷時の編集の都合で最終原稿は MS-Word 形式でお願いすることがあります。

2. 受付の確認を電子メールで送付いたします。投稿後 1 週間を過ぎても連絡が無い場合は、以下の連絡先までお問い合わせ下さい。

3. 掲載論文の著作権は学会に帰属します。掲載論文は J-STAGE にて公開します。

『応用地域学研究』に関する お問い合わせ先

応用地域学研究編集委員長 堤 盛人

〒305-8573 つくば市天王台 1-1-1 筑波大学システム情報系 社会工学域
TEL 029(853)5007 E-Mail journal@arsc.org

8. 2020 年度決算(概要)

会計担当運営幹事 亀山 嘉大 (佐賀大学)

2020年度(2020年4月1日～2021年3月31日)学会決算(概要)案を以下のとおりご報告いたします。本決算結果は、監査委員による監査後、本年度大会での総会にて会員の皆様への報告がなされ、審議される予定です。なお監査委員は、近藤恵介(経済産業研究所)及び松浦寿幸(慶應義塾大学)の両氏にお願いすることになりました(前掲)。(詳細の報告は、監査終了後、総会承認後のニューズレターに掲載します。)

2020年度は単年度としては約 290 万円の黒字、繰越金は約 550 万となり、財政状況が改善致しました。これは RURDS 刊行・購読費が不要になった他、『応用地域学研究』の J-Stage 移行により年報刊行費も減少したことが大きな要因と考えられます。引き続き運営委員会では、会員の皆さまにとって有意義な学会運営となることを目指し検討を続けていくとともに、賛助会員の確保や会員増に努めてまいります。

2020 年度決算(案)概要 ()内は 2019 年度

(単位: 万円)

収 入		支 出	
繰越金	262 (275)	RURDS 購読	0 (248)
会費(国内, 国際, 賛助)	457 (468)	「応用地域学研究」刊行	21 (57)
その他(雑誌販売等)	0 (3)	大会開催補助	12 (27)
		国際会費	22 (19)
		事務費, その他	111 (133)
収入合計	719 (746)	支出合計	166 (484)
(繰越金を除く収入計)	457 (471)	繰越金	553 (262)

9. 2021 年度第 1 回運営委員会報告（概要）

ARSC 事務局

2021 年度第 1 回運営委員会が 8 月 1 日(日)に行われました。議事録等の詳細が必要な方は事務局までお知らせ下さい。以下に、議事の要点をご紹介します。

議事要旨

1. 副会長選挙結果報告（前掲）
2. 運営幹事等役員の選任(2021 年度選任)
 - * 監査委員，選挙管理委員，坂下賞選考委員会（委員長・委員），応用地域学会論文賞選考委員会（委員長・委員）の各委員長・委員を選出した。
 - *（2021 年度役員一覧は前掲）
3. 2020 年度決算と課題
 - * 2020 年度決算概要について報告された。（前掲）
4. 2021 年度坂下賞の選考（前掲）
 - * 例年どおりに，受賞候補者の自薦他薦を含めた推薦を公募する（ニュースレターとホームページで公募を開始）ことが確認された。
5. 2021 年度応用地域学会論文賞の選考について
 - * 例年どおりに選考委員会で受賞論文を選考する。
6. 2021 年度研究発表大会（金沢大学）の開催（前掲）
 - * 大会実行委員の高山雄貴先生（金沢大学）より，大会準備状況，実行委員会メンバーなどが報告された。
 - * 新型コロナウイルス感染拡大の影響により，今年度大会もオンライン開催に決定した。
 - * 開催日程は 2021 年 11 月 20 日（土），21 日（日）
7. 2021 年度 第 11 回アジア地域科学セミナーの開催について
 - * 2021 年 10 月 8 日(金)～9 日(土) にオンラインで開催予定のアジア地域科学セミナーの ARSC からの参加状況について報告された。
 - ・ 7 月 16 日時点で，論文発表申込 28 本（うち ARSC 6 本）
8. 『応用地域学研究』編集状況及び今後の方針
 - * 編集委員長 堤盛人先生より，No.24 の編集状況について報告された。



ARSC 会員現勢

2021年8月15日現在の会員数(昨年度総会以降の入退会者を含む)は以下の通りです。

個人会員 466名(内、一般会員 406名、学生会員 57名、海外会員 3名)

賛助会員 5団体(総口数 7口)。

事務局からのお願い

- ◆ 会員の皆様の登録情報は、メール連絡や請求書・領収書等の送付に重要な情報となっています。変更があった場合は、会員ページ (<https://service.kktcs.co.jp/smms2/loginmember/arsc>) にログインし、速やかに登録情報の変更をお願いいたします。
- ◆ 地域科学関連分野の研究に興味を持たれている個人または団体が周囲におられましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。新規会員の入会申込はARSCのホームページ(<http://www.arsc.org/>)の「入会手続き」より行えます。入会に関するお問い合わせは、ARSC事務局でメール (clerk@arsc.org) 対応いたします。
- ◆ 事務局やニュースレター等に対しまして、ご意見や新しい企画等ございましたら、是非、お知らせください。

編集
後記

未だ予断を許さない状況が続くなか、今年度の研究発表大会もオンラインでの開催となりました。まずは足掛け2年に渡り研究発表大会の開催にご尽力頂いた金沢大学の関係者に御礼申し上げます。個人的には北陸を訪問することを楽しみにしていただけに昨年に続きオンラインでの開催になったことはやむを得ないこととはいえ残念な気持ちです。しかしながら、昨年は手探りで開催していたオンライン学会・研究会などの学術交流も多くの方がそのスキルを身に付けたことで従来の形式での開催と遜色ないものになってきております。金沢を満喫することは叶いませんが、11月に会員の皆様にお会いできることを楽しみにしております。(T.N)

ARSC NEWS No.106 (2021年8月発行)

発行元 応用地域学会事務局 (文部科学省学会コード=10023)

会長: 奥村 誠

ARSC NEWS 担当: 高橋 孝明 (副会長) / 内藤 徹 (渉外担当幹事) / 光井 明日香 (事務局)

〒162-0805 東京都新宿区矢来町 126 NITTO ビル (株)メッツ研究所内

TEL: 03 (5227) 7804 / FAX: 03 (5227) 7807

Email: clerk@arsc.org / 学会 HP: <http://www.arsc.org/jp/>